

平成 29 年 1 月 26 日(木)

新潟県議会 新農業戦略対策特別委員会行政視察

阿賀野ドリームプロジェクト 共同プロジェクト

植物工場ビジネス『TAF Garden』視察説明会 次第

司会進行 株式会社脇坂園芸 代表取締役 脇坂裕一

① あいさつ 阿賀野ドリームプロジェクト会長
株式会社クボ製作所 専務取締役 佐藤政輝

② メンバー紹介

③ 阿賀野ドリームプロジェクト 紹介
阿賀野ドリームプロジェクト事務局長
株式会社丸山電業社 代表取締役 丸山正孝

④ 植物工場 完全閉鎖型人工光水耕栽培『TAF Garden』説明
阿賀野ドリームプロジェクト 会員
株式会社脇坂園芸 代表取締役 脇坂裕一

⑤ 植物工場 移動 見学

阿賀野ドリームプロジェクトの取り組み

阿賀野市の産業活性化を目指し2012年に結成された、市内外の事業者の集団です。

主な活動

- ① あがのわくわく産業フェア 企画運営

- ② 会員企業の視察研修会（2ヶ月に1回）

- ③ 異業種交流と連携による新ビジネスの創出

- ④ 新規起業希望者のサポート

阿賀野ドリームプロジェクトの構成メンバーは、農・商・工・各種団体・行政・社労士や弁護士 等々多方面にわたって構成されております。

完全閉鎖型人工光水耕栽培

《T A F G a r d e n》への経緯

阿賀野ドリームプロジェクトのサポートを受けて事業展開を進めた株式会社脇坂園芸の【エディブルフラワー事業】の成果が出始めてきたところに起きた最大の問題点である病害虫の発生が、事業としての限界を感じるころとなり、問題解決の相談を阿賀野ドリームプロジェクトメンバーに提案。

農薬を使用しないで病害虫の発生を防ぐのは非常に厳しい。

そこで完全に隔離した空間で栽培される植物工場に着目。

1年以上の試行錯誤で、我々のメンバーで作り出せることがわかる。

会員の中から企業を選択。

建 屋 株式会社若月商店

光源LED及び電気関係 株式会社丸山電業社

プール等水道関係 さくら水道

栽培棚等設備関係 株式会社クボ製作所

栽培管理 株式会社脇坂園芸

栽培技術指導 新潟県工業技術総合研究所 研究開発センター

実施場所については当初、脇坂園芸農場敷地内に於いてコンテナでの実証実験を予定していたが、少子化による小学校の廃校が増え始めた事もあり、地域活性化に繋がればとの思いで廃校舎を利用する事に決定。市との交渉により旧大和小学校給食室を有償にて借り受ける契約を結ぶ。

植物工場事業には、小規模事業者持続化補助金を利用し開始。

2014年7月	植物工場展（東京ビックサイト）視察
2015年6月	植物工場展2回目の視察
2015年9月	工事着工
2016年1月8日	試験栽培開始
2016年6月	試験出荷を開始
2016年11月	試験栽培終了
2016年11～12月	設備の補修点検完了
2017年1月上旬	本格栽培開始

植物工場事業の今後の展望

小学校は地域の中核的存在であったため、廃校は地域コミュニティの減少と衰退をイメージしてしまう。今後廃校を活用する事で再び地域の中心的エリアに育てていきたい。植物工場栽培システムの確立により、たくさんある教室を使いI・Uターン起業希望者や企業の新規ビジネス参入としての可能性を探り、地域の活性化をねらう。

株式会社脇坂園芸 経緯

- 1983年 稲作園芸の複合経営として、専業営農を開始
- 1996年 コメリホームセンターとの直接取引開始
販売を市場卸から直接販売に移行
- 2011年 新規部門計画を始める
新潟産業創造機構・阿賀野市・普及センターなどから協力
- 2012年 エディブルフラワーの導入を決定、栽培開始
- 2013年5月 株式会社脇坂園芸 創業（法人成り）
- 2013年5月 六次産業化・地産地消法 事業計画認定
- 2014年7月 加工直売所 《エディブルガーデン SOEL》オープン
- 大小商談会や展示即売会、テレビ・雑誌・新聞等マスコミ媒体を積極的に受け、販路開拓を行う。
- 2015年9月～ 植物工場事業参入
- 2016年12月 植物工場本格操業開始

脇坂園芸の今後の目標

エディブルフラワーの日本国内での農産物として定着させる。
エディブルガーデンSOELを中心にした、観光農園化。
観光農園を基軸に阿賀野市の産業の活性化の一助になる。
刻々と変化する時代に対応できる企業として成長する。
一番は従業員が幸せを感じられる会社を作る。